

費の節減と、なお一層の飼養管理技術の向上に努めます。本年度は、良質な粗飼料の確保を図るため、道営事業によりセタニウシ団地の草地整備を引き続き進めるほか、預託牛に与える乾草の保管施設整備に向けた実施設計を行います。

担い手の育成・確保対策については、関係機関と連携し、昨年度制度を拡充した『厚岸町新規就農者誘致条例』の活用により、担い手の育成・確保に努めます。

また、地域の念願であった太田活性化施設については、その愛称を「らくとびあ」とし、4月1日の開所を予定しており、活発な利用を促進します。

森林の有する公益的機能の維持増進と持続的な資源の確保を図るため、町有林については、公益的機能の維持増進を基本に、計画的な森林施業を進め



ます。

私有林については、民有林振興対策事業および森林整備地域活動支援交付金事業を継続します。

また、林業労働災害の未然防止に向けて関係機関と連携し、情報収集・発信に努めます。

林業担い手対策としては、林業作業員の長期安定雇用のための森林整備担い手対策推進事業を引き続き実施します。

本年度も、町民参加の森づくり事業として、町民の森植樹祭を支援します。

また、国や北海道など関係機関と連携を図り、地域で産出される木材の利用促進を図るとともに、昨年度から実施した町有林内の林地残材を有効活用する森林資源利活用事業については、事業量を増やして継続します。

きのこ菌床センターについては、高品質な菌床の安定供給に努めます。また、生産者を取り巻く経営環境が、価格の低迷などにより厳しい状況が続いていることから、厚岸産しいたけの価値を高め消費拡大を図るための活動を支援します。さらに、新規着業者の募集を継続するとともに、生産者と連携し受入支援に努めます。

昨年4月の消費税率引き上げの影響は和らぎつつあるものの、実質賃金の減少や電気料金の再値上げなど度重なる負担増で、個人消費は低調なまま推移したため、景気持ち直しの実感は、本町においては未だ十分に浸透していないのが現状です。

の効果的展開について討議する会議の成功に向けて取り組みます。

このことから、地域経済の発展や活性化を支える担い手となる新卒者や若年層の就業の場を確保するため、厚岸町雇用対策連絡会議などを通じ、町内の各企業、団体への働きかけを継続します。

また、季節労働者や失業者の通年雇用の促進については、釧路地域通年雇用促進支援協議会をはじめ、ハローワークや釧路総合振興局などの関係機関との密接な連携を図り、雇用機会の確保と安定に努めます。

やさしさあふれ健やかに安心して暮らせるまちづくり

町民の皆さんの健康増進については、『第2期みんなすこやか厚岸21』に基づき事業を推進し、町民一人一人が生涯にわたり主体的な健康づくりに取り組めるよう、ライフステージに合

った防災Wi-Fiステーションを整備し、さらなる施設機能の充実に努めます。さらに、道の駅としての防災拠点施設機能が十分発揮できるよう、駐車場の拡張整備などについて引き続き国などの関係機関に支援を要請します。



このため、国の緊急経済対策による『地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金』の活用にあたっては、町内経済への波及に十分配慮し、中でも、消費喚起効果の高いプレミアム商品券発行に対する支援や商店街利用の促進を図る『あやめポイントカード』発行支援などを行います。

また、一次産業や製造業、観光業などで取り込んだ財貨を可能な限り町内で循環させる『域内循環』を促進しながら、中小企業の振興を図るため『厚岸町中小企業振興計画』の着実な推進に厚岸町商工会と連携しながら取り組みます。

ハッピーブライダル奨励事業については、地域経済の活性化に資するよう、引き続き実施します。

さらに、企業の安定経営に欠かせない金融の円滑化に向け、厚岸町商工会



わせた各種事業について周知・啓発に努め、健康増進に向けた意識の高揚を図ります。

保健予防サービスについては、生活習慣病の予防と疾病の早期発見のため、各種健康診査やがん検診の勧奨により、受診率の向上を図ります。

感染症対策については、各種感染症に対する危機管理意識向上のための周知と予防接種の勧奨を行うとともに、昨年度整備した町内の医療機関や関係機関による感染症情報共有体制を検証し、その有効活用を図ります。

地域医療を担う町立厚岸病院は、国の医療政策により大きな影響を受け、診療報酬の引き下げと医療費抑制策の下で厳しい経営状況が続いています。

しかし、町民の皆さんの命と健康を支える地域唯一の中核的な病院機能を有する医療機関として、『かかりつけ医』による優しさある医療を基本理念に、公立病院の使命である地域に不足する不採算とされる高度医療、小児医療、救急医療や予防医療などを確保するとともに、町民の皆さんが適切な医療を受けられるよう2次・3次医療機関の専門医への紹介と連携に努めます。

また、地域医療を守るため、常勤医師による診療体制の維持を最優先に、薬剤師や看護師など医療従事者の確保に努め、これまでどおり急性期から慢性期までの広範な医療を継続し、内科、外科、小児科の外来診療に加え整形外科と脳神経外科の専門外来を維持するとともに、一般入院病床の効率的な運

や金融機関と連携して、町の融資制度をはじめとする各種公的資金の周知と有効な活用促進に取り組みます。

観光については、道東自動車道白糠インターチェンジの供用開始や昨年好調であった釧路と名古屋を結ぶ航空路線が本年夏も継続運行されるなど、釧路地域における観光客の増加が期待できる環境が整ってきています。これを機に、一層の観光客誘致を図るため、関係機関と連携しながら、本町の魅力と特性を生かした取り組みを行います。

多様化する観光客のニーズにこたえられるガイドの育成・活用については、釧路町・厚岸町・浜中町広域観光推進協議会や観光関係者と連携し取り組みます。

観光情報の発信については、本町の魅力を全国的に広くPRするため、ご当地キャラクター『うみえもん』を活用し、道内外の観光・物産イベントなどへの参加のほか、民間にも協力を得ながらキャラクターを活用した観光・物産の情報発信の展開に取り組みます。

また、町や厚岸観光協会のホームページを活用した新鮮かつ魅力的な情報発信に努めるとともに、釧路町・厚岸町・浜中町広域観光推進協議会など関係機関と連携しながら、広域観光の推進に資する情報発信にも取り組みます。

本年、アヤメを慈しむ自治体で構成する全国市町村あやめサミットが、6月30日と7月1日の2日間、平成44年以来、23年ぶりに本町で開催されることから、アヤメを生かしたまちづくり用を図り、信頼される病院づくりを進めます。



広域救急医療については、近隣市町村や関係機関との連携を図りながら、小児救急やドクターヘリ運航などの体制維持に努めます。

町民の皆さんの多くは、住み慣れた地域や家庭で暮らし続けることを望んでいます。誰もがいきいきと希望を持って暮らすことのできる環境づくりが大切であり、地域福祉に関わる全ての人や団体とのネットワークの構築を促進し、共に支えあい、助けあう地域づくりを目指す『厚岸町地域福祉計画』の推進に取り組むとともに、平成28年度を始期とした新たな第3期計画の策定を進めます。

避難行動要支援者の支援については、データベース化を継続するとともに、地域や関係機関と情報を共有し、引き